

介助犬の普及めざす

党県議団 全国初の訓練施設を視察

・町
知手
久長
愛長

愛知県長久手町に先ると6月末現在、国内で竹頭が活動中。しか
ころ、介助犬の専門訓練施設として全国で初めてとなる介助犬総合
訓練センター「シンシアの丘」が開設され、注目を集めている。介
助犬の普及をめざし、一貫して推進してきた公明党県議団(桂俊弘
団長)がこのほど、視察した。

介助犬とは、身体が不自由な人の日常の生活動作を手助けするために特別なトレーニングを積んだ犬のこと。

一行は、介助犬の現状について説明を受けた後、実際の訓練を見

ると6月末現在、国内で竹頭が活動中。しか
し、同犬が必要とされる人は約1万5000人で早期育成が課題に
なっている。

バリアフリーの同センターには、トレーニング室や大会、ドッグランなどが完備され、対応した同協会の高柳友子事務局長は「障がい者が泊まり込みで介助犬と一緒に訓練を受けられる」と話していた。

一行は、介助犬の現状について説明を受けた後、実際の訓練を見

ると6月末現在、国内で竹頭が活動中。しか
し、同犬が必要とされる人は約1万5000人で早期育成が課題に
なっている。

バリアフリーの同センターには、トレーニング室や大会、ドッグランなどが完備され、対応した同協会の高柳友子事務局長は「障がい者が泊まり込みで介助犬と一緒に訓練を受けられる」と話していた。

一行は、介助犬の現状について説明を受けた後、実際の訓練を見

ると6月末現在、国内で竹頭が活動中。しか
し、同犬が必要とされる人は約1万5000人で早期育成が課題に
なっている。

バリアフリーの同センターには、トレーニング室や大会、ドッグランなどが完備され、対応した同協会の高柳友子事務局長は「障がい者が泊まり込みで介助犬と一緒に訓練を受けられる」と話していた。

一行は、介助犬の現状について説明を受けた後、実際の訓練を見

ると6月末現在、国内で竹頭が活動中。しか
し、同犬が必要とされる人は約1万5000人で早期育成が課題に
なっている。

バリアフリーの同センターには、トレーニング室や大会、ドッグランなどが完備され、対応した同協会の高柳友子事務局長は「障がい者が泊まり込みで介助犬と一緒に訓練を受けられる」と話していた。

一行は、介助犬の現状について説明を受けた後、実際の訓練を見

ると6月末現在、国内で竹頭が活動中。しか
し、同犬が必要とされる人は約1万5000人で早期育成が課題に
なっている。



介助犬総合訓練センターを視察する党県議団

すなどの訓練が行われていた。
視察を終えた桂団長からは「介助犬が広く認知されるよう一層の普及を後押しし、障がい者の社会参加を支援していきたい」と語って